

水都国際中学校・高等学校の指定管理法人による運営について

対象受検機関：教育庁教育振興室

事務事業の概要	検出事項	改善を求める事項																																											
1 水都国際中学校・高等学校について (1) 国家戦略特別区域法に基づく公設民営学校 - 学校教育法では、学校の設置者が当該学校の管理を行わなければならないと規定している。一方で、国家戦略特別区域法は、学校教育法の特例として、国際理解教育及び外国語教育を重点的に行うものその他の産業の国際競争力の強化及び国際的な経済活動の拠点の形成に寄与する人材の育成の必要性に対応するための教育を行うものの管理を、学校法人その他の一定の法人（一般社団法人、一般財団法人、NPO法人等）に行わせることができるとしている。 - 水都国際中学校及び高等学校（以下「水都国際高等学校等」という。）は、平成29年12月に本特例を活用して設置された、全国初の公設民営による併設型中高一貫校である。 (2) 施設概要 <table><tr><td>所在地</td><td colspan="4">大阪市住之江区南港中 3 丁目 7 −13</td></tr><tr><td>開校時期</td><td colspan="4">平成31年 4 月</td></tr><tr><td>設置者</td><td colspan="4">大阪府 ※令和 4 年 4 月に大阪市より移管</td></tr><tr><td>運営形態</td><td colspan="4">公設民営</td></tr><tr><td>指定管理法人</td><td colspan="4">学校法人大阪YMCA</td></tr><tr><td>指定期間</td><td colspan="4">10年（平成31年 4 月～令和11年 3 月）</td></tr><tr><td rowspan="3">生徒数 (R7年度)</td><td></td><td>中学校</td><td>高等学校</td><td>合計</td></tr><tr><td>生徒定員数</td><td>240名</td><td>480名</td><td>720名</td></tr><tr><td>在籍者数</td><td>240名</td><td>464名</td><td>704名</td></tr></table> (3) 他の府立学校と異なる特徴 ア 国際バカロレア (IB) 認定校 (ア) 国際バカロレアとは - 国際バカロレア機構が1968年から提供する国際的な教育プログラム。世界約160の国・地域の 5,800以上で実施されている。 - 批判的思考や探究スキル等を養う特色的なカリキュラム、双方向・協働型授業により、地域社会・国・世界の問題を深いレベルで理解し、課題解決を図ることができるグローバル人材を育成しており、特に高校レベルのディプロマプログラム（DP）では、課題論文等が必須科目として、大学進学後も必要とされるスキルを習得するとともに、国際的に通用する大学入学資格（IB資格）を取得可能とされている。（日本では1979年にIB資格を大学入学資格として指定） (イ) IB認定校である水都国際高等学校等の特徴 - 水都国際高等学校等では、令和 2 年度に国際バカロレアDPの認定を受け、高校 2 年次より国際バカロレアコースに在籍する生徒を対象にDPプログラムによる授業を実施している。高校 3 年次の 11 月には、世界共通の国際バカロレア試験を受験し、24点以上(45点満点を)取得すれば、国際的に通用する国際バカロレア資格(フルディプロマ資格)の認定を受けることができる。なお、国際バカロレア資格は、国際バカロレア認定校でなければ取得できない。	所在地	大阪市住之江区南港中 3 丁目 7 −13				開校時期	平成31年 4 月				設置者	大阪府 ※令和 4 年 4 月に大阪市より移管				運営形態	公設民営				指定管理法人	学校法人大阪YMCA				指定期間	10年（平成31年 4 月～令和11年 3 月）				生徒数 (R7年度)		中学校	高等学校	合計	生徒定員数	240名	480名	720名	在籍者数	240名	464名	704名	1 水都国際高等学校等について、府は、予算編成過程公表サイトにおいて、「入学者選抜志願倍率（中学校5.0倍以上、高等学校1.2倍以上）」及び「高校卒業時点でCEFR B2レベルの英語力を有する生徒の割合（70%）」を成果指標として公表している。 しかし、「入学者選抜志願倍率」の高等学校の目標値については、指定管理法人選定時の提案書で4.0倍以上とされていたものを1.2倍以上とした経緯を書面で確認できず、「高校卒業時点でCEFR B2レベルの英語力を有する生徒の割合」については、その設定根拠及び設定経緯を確認できなかった。 加えて、「高校卒業時点でCEFR B2レベルの英語力を有する生徒の割合」について、予算編成過程公表サイトの目標値（70%）を契約期間中の長期目標、校長が定める学校経営計画の目標値（25%）を中期目標としているが、学校経営計画の目標値は達成されても段階的な引上げ等も行われておらず、府が、長期目標の達成に向けた具体的な道筋をどのように描いているのか、また、当該目標値が管理目標として機能しているのかが判然としない。 2 上記の成果指標は、外部有識者による評価委員会におけるモニタリングの具体的な評価項目とされておらず、別途公表もされていないことから、目標の達成状況に対する評価、要因分析及び改善に向けた取組がどのように行われているのかを府民が把握できる状況となっていない。	1 予算編成過程公表サイトにおける成果指標は、府民が事業の成果や費用対効果を把握するための重要な情報である。このため、成果指標及び目標値については、その達成に向けた具体的な方策や進捗管理の方法を検討するとともに、水都国際高等学校等の設置目的や特色ある教育活動の成果を的確に評価するあり方を検討されたい。 2 成果指標は、成果を客観的に測定するだけでなく、その結果を踏まえて継続的な改善につなげるための重要なツールである。このため、評価委員会におけるモニタリングの具体的な評価項目とすることを含め、成果指標の達成状況に対する評価、要因分析及び改善に向けた取組が府民から見て分かりやすいものとなるよう、実施及び公表のあり方について検討されたい。
所在地	大阪市住之江区南港中 3 丁目 7 −13																																												
開校時期	平成31年 4 月																																												
設置者	大阪府 ※令和 4 年 4 月に大阪市より移管																																												
運営形態	公設民営																																												
指定管理法人	学校法人大阪YMCA																																												
指定期間	10年（平成31年 4 月～令和11年 3 月）																																												
生徒数 (R7年度)		中学校	高等学校	合計																																									
	生徒定員数	240名	480名	720名																																									
	在籍者数	240名	464名	704名																																									

- ・また、国際バカロレア認定校となるに当たっては、DPの導入のために生徒が課題を調査・研究するための学習環境や図書館、安全な器具が整備された理科実験室などを準備する必要がある。例として、図書室では、最低でも1クラス全員が同時にグループワークを行うことができるスペースを確保することや、理科実験室では、生徒の安全面に配慮した洗身シャワー等の設備を備えたDP実験室やDP化学実験室が設けられている。その他施設の特徴として、グループワークやプレゼンテーション、課外活動が可能なスペースが多く設置されている。
- ・水都国際高等学校等は、公立学校としての公共性を担保しつつ、これからの国際社会に対応した教育を実施できる特徴がある。府が当該教育を行う意義として、私立学校が無償化されても、入学金などの金銭的負担が重くのしかかる中、府民が家庭の経済状況によらず、国際バカロレア教育を受ける機会を提供し、府立高校として生徒や保護者の多様なニーズに応えることにもつながっている。

イ 民間法人の運営ノウハウの導入

- ・本事業では民間法人の運営ノウハウを活用した「柔軟な人事管理」や「多様な人材の招聘」などが導入目的とされている。本事業では、特に、「外国人教員」の採用が重要であるが、労働条件や任用形態等の課題についても、指定管理法人が給与体系を設定することができ、採用面で任用形態の柔軟性や能力に応じた給与支給を実現している。

2 成果指標

(1) 設定された成果指標と実績等

- ・水都国際高等学校等について、府は、予算編成過程公表サイトにおいて、「入学者選抜志願倍率（中学校5.0倍以上、高等学校1.2倍以上）」及び「高校卒業時点でCEFR B2レベルの英語力を有する生徒の割合（70%）」を成果指標として公表している。

成果指標		目標値	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
入学者選抜志願倍率	中学校	5.0倍以上	4.55	5.18	4.05	3.68	3.73
	高等学校	1.2倍以上	1.54	1.72	1.29	1.50	1.39
高校卒業時点でCEFR B2レベルの英語力を有する生徒の割合		70%	10%	28%	30%	23%	—

(2) 成果指標設定と目標値の考え方

- ・府市で取り決めた「大阪市立の高等学校等移管計画」では、教育水準の維持を図ることを基本的な考え方として、水都国際高等学校等は現状のまま移管することとされている。
- ・本計画に基づき、設置者変更による指定管理法人の運営形態が大きく変わることを避けるため、府は大阪市が設定した成果指標と目標値をそのまま継続し現在に至るとのこと。
- ・なお、大阪市から引継いだ文書の中に、「入学者選抜志願倍率 中学校5.0倍以上 高等学校1.2倍以上」及び「高校卒業時点でCEFR B2レベルの英語力を有する生徒の割合70%」を成果指標とする旨が記載されたものはない。
- ・一方、上記成果指標のうち「入学者選抜志願倍率」は、指定管理法人選定時に、現指定管理法人の提案書において目標値に関し「中学校5.0倍以上、高等学校4.0倍以上」とする記載があった。ただし、市がいずれかの時点で現指定管理法人との協議により決定したとされる現行の目標値「中学校5.0倍以上 高等学校1.2倍以上」及びこれを成果指標とする旨は、基本協定書等には記載されていない。

